

会

報

社団法人 日本病理学会
 〒113-0033
 東京都文京区本郷2-40-9
 ニュー赤門ビル4F
 TEL: 03-5684-6886
 FAX: 03-5684-6936
 E-mail jsp-admin@umin.ac.jp
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第222号

平成18年(2006年)7月刊

1. 第54回(平成20年度)秋期学術集会世話人並びに第98回(平成21年度)学術集会会長の募集について(公募のお知らせ)

社団法人日本病理学会は、第54回(平成20年度)秋期学術集会世話人並びに第98回(平成21年度)学術集会会長を以下のとおり募集いたします。

学術評議員各位

平成18年7月

社団法人 日本病理学会

理事長 長村 義之

日本病理学会秋期学術集会(秋期特別総会)の世話人ならびに学術集会(春期総会)の会長は、定款施行細則の定めるところにより、いずれも理事会が選考し、総会において決定しています。

ここに、第54回(平成20年度)秋期学術集会世話人または第98回(平成21年度)学術集会会長を、下記の要領により募集いたします。

記

1. 応募は自薦であること。
2. 応募者は、第54回秋期特別総会世話人の場合は平成20年11月1日に、また、第98回春期総会会長の場合は平成21年4月1日にそれぞれ満65歳以下の日本病理学会学術評議員であること。
3. 第54回(平成20年度)秋期特別総会世話人の応募は、関東地区以外からの限定とすること。
4. 応募者は、日本病理学会学術集会改革案(平成18年5月1日決定 会報221号平成18年6月掲載)の主旨を踏まえて、所定の用紙に学術集会に対する考え方、学術集会の具体的な実行計画、日本病理学会及び関連学会において近年に行った主要な学術活動等を記載すること。
5. 応募の締め切りは、平成18年9月30日(消印有効)までとすること。

なお、所定用紙の交付または本件についての質問があり

ましたら、本学会事務局までお問い合わせください。

2. 第97回(平成20年度)日本病理学会総会における宿題報告の募集について(公募のお知らせ)

日本病理学会学術委員会は、春期総会における宿題報告の選考を、自薦のみによる公募制としております。

ここに第97回(平成20年度)日本病理学会における宿題報告を下記の要領により、募集いたします。

記

1. 応募資格：日本病理学会学術評議員
 2. 募集人員：3名。ただし、学術委員会による選考の結果、宿題報告担当者として適当と判断された応募者数が上記人員に達しない場合、第97回日本病理学会総会における宿題報告を3題未満とすることがある。
 3. 提出書類：
 - ・日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、応募者名、演題名、選考用抄録(1,000字以内)などを記載のこと。ダウンロードできない場合は、日本病理学会事務局まで請求のこと。
 - ・講演内容に直接関係のある自著論文50編以内の一覧
 - ・代表的な自著論文10編以内の別刷
 4. 提出先：〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-9
 ニュー赤門ビル4F
 社団法人日本病理学会事務局
 「宿題報告応募抄録」と明記し、書留郵便で送ること。
 5. 締め切り：平成18年9月30日(消印有効)
- なお、第97回日本病理学会における宿題報告担当者は、平成18年10月の学術委員会において厳正・公明に選考し、同年11月の理事会審議にて決定いたします。本件につきましてご質問がありましたら、日本病理学会事務局または学術委員長までお問い合わせください。

日本病理学会事務局：

TEL 03-5684-6886 FAX 03-5684-6936

学術委員長（岡田保典）：

TEL 03-5363-3763 FAX 03-3353-3290

3. 第8回（平成18年度）日本病理学会会員海外派遣事業について（公募のお知らせ）

日本病理学会では、会員に広く海外の動向を伝えていくことも極めて重要なことと考え、病理学に関する海外の研究、教育、診療および施設・設備全般の事情を視察し、わが国の病理学の発展に役立てるため、実績のある会員を海外に派遣する事業を行っています。

国際交流委員会では、本年度の本事業に基づく派遣会員を下記の要領により募集いたします。

記

1. 応募資格：日本病理学会学術評議員
2. 派遣期間：原則として出国期間が平成18年度後半から平成19年度前半の間で1週間程度（海外の病理学会への参加期間を含んでもよい。ただし、海外参加支援事業への重複応募は不可）
3. 派遣人員：2～3名
4. 派遣経費：1名30万円
5. 締め切り：平成18年9月30日（消印有効）

派遣候補者の選考は国際交流委員会で行い、理事会審議にて決定します。

応募用紙は日本病理学会事務局までご請求ください。本件につきましてご質問がありましたら、日本病理学会事務局または国際交流委員長までお問い合わせください。

日本病理学会事務局：

TEL 03-5684-6886 FAX 03-5684-6936

国際交流委員長（笹野公伸）：

TEL 022-717-7450 FAX 022-273-5976

4. 第7回（平成19年度）海外病理学会会員招聘事業について（公募のお知らせ）

日本病理学会では、実績のある海外病理学会会員が、日本病理学会総会ならびに各種セミナーにおいて講演等を行うため来日する際の援助を行っています。

国際交流委員会では、本年度の本事業に基づく海外病理学会会員招聘の企画を下記の要領で募集いたします。

記

1. 招聘対象者：海外病理学会会員
2. 招聘期間：平成19年4月1日から平成20年3月31日

3. 招聘人員：2～3名

4. 助成額：1名20～30万円（日本病理学会総会時は1名20万円、これ以外では1名30万円）

5. 締め切り：平成18年9月30日（消印有効）

候補企画の選考は国際交流委員会で行い、理事会審議にて決定します。

応募用紙は日本病理学会事務局までご請求ください。本件につきましてご質問がありましたら、日本病理学会事務局または国際交流委員長までお問い合わせください。

日本病理学会事務局：

TEL 03-5684-6886 FAX 03-5684-6936

国際交流委員長（笹野公伸）：

TEL 022-717-7450 FAX 022-273-5976

5. 第6回（平成18年度）海外病理学会参加支援事業について（公募のお知らせ）

日本病理学会では、本学会の若手会員が、国際的視野を養い病理学研究に貢献できるように、海外の病理学会に参加し、研究発表を奨励するための助成を行っています。

国際交流委員会では、本年度の本事業に基づく海外病理学会への参加会員を下記の要領にて募集いたします。

記

1. 応募資格：40歳未満（応募時）の日本病理学会会員（日本病理学会学術評議員の推薦を受けた者）
2. 対象学会：International Academy of Pathology (IAP), American Society for Investigative Pathology (ASIP), European Society of Pathology (ESP), World Association of Societies of Pathology (WASP) など
3. 募集人員：10名
4. 助成額：1名10万円
5. 締め切り：随時
6. 決定の時期：前期 平成18年秋期特別総会（平成18年9月末までの応募分）
後期 平成19年春期総会（平成19年2月末までの応募分）

候補者の選考は国際交流委員会で行い、理事会審議にて決定します。演題の採択が未定の場合は、本支援事業への採否は保留となります。演題採択後に採択通知を事務局あて提出してください。演題採択通知を受理することによって本支援事業への採択が確定いたします。

応募用紙は日本病理学会事務局までご請求ください。本件につきましてご質問がありましたら、日本病理学会事務局

局または国際交流委員長までお問い合わせください。

日本病理学会事務局：

TEL 03-5684-6886 FAX 03-5684-6936

国際交流委員長（笹野公伸）：

TEL 022-717-7450 FAX 022-273-5976

6. 技術講習会—分子病理学の基礎技術—6の受講者の募集について

—組織検体を用いた網羅的分子病理学的解析—

受講者募集

ゲノム科学のめざましい進歩とその応用により、組織検体から病因・病態に関する膨大な情報を得ることが可能になっています。遺伝子・分子の異常に関して様々な網羅的解析法が開発されており、それを利用することで、疾病を起こす詳細な仕組みを効率的に解明することができます。私たちが取り扱う病理組織の内、新鮮凍結検体ではほぼすべての解析法が応用できることから、その試料の重要性はきわめて大きいものです。今回の講習会では、トランスクリプトーム、プロテオーム、エピジェノーム(DNAメチル化)の網羅的解析法の原理と実際を取り上げ、その解析過程におけるパラフィン包埋組織の利用についても言及していただく予定です。さらに、組織アレイの有用性について染色体変化を例に話していただきます。疾病の診断の中枢を担う病理が、遺伝子/分子の個性に基づいた個別化医療を目指す「ゲノム医療」の潮流の中で中心的役割を果たすためにも、病理検査室にある組織検体がいかに貴重であるかを再確認していただく良い機会にもなると思います。

下記の要領で参加者を募集いたしますので、会員諸氏にはふるってご応募されますようにご案内いたします。

記

- 日時：2006年11月22日（水）
第52回日本病理学会秋期特別総会前日
13:00～17:20
- 場所：ダイワロイネットホテル和歌山
(秋期特別総会会場)
- 演題と演者
 - 「組織検体を用いたマイクロアレイによるトランスクリプトーム解析」
佐々木博己（国立がんセンター研究所）
 - 「組織検体を用いたSAGE法によるトランスクリプトーム解析」
大上直秀（広島大学）
 - 「組織検体を用いた網羅的メチル化遺伝子解析」
宮本和明（国立病院機構呉医療センター）

- 「TOF/MSを用いたプロテオーム解析の病理組織への応用」
阿部康人（愛媛大学）

- 「組織アレイとmicrowave-assisted FISHプロトコールを用いた腫瘍染色体変化の探索・応用」
梶村春彦（浜松医科大学）

プログラムの詳細につきましては、日本病理学会ホームページ (<http://jsp.umin.ac.jp/>) をご参照ください。

- モデレーター：安井 弥（広島大学）
- 講義担当者：5名
- 募集人員：約120名
- 受講料：5,000円（ハンドアウト代含む）
- 応募、問い合わせ、参加決定：
 - 受講希望者は、受講を希望すると旨とともに、氏名、所属、会員・非会員の区別、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、E-mail address等）を記載の上、以下の応募先までお申し込みください。
応募先：社団法人日本病理学会事務局
TEL：03-5684-6886 FAX：03-5684-6936
E-mail：jsp-admin@umin.ac.jp
内容の問い合わせ先：安井 弥（広島大学大学院医歯薬学総合研究科 分子病理学）
TEL：082-257-5145 FAX：082-257-5149
E-mail：wyasui@hiroshima-u.ac.jp
 - 学会員は先着順に参加決定いたします。非会員は10月1日時点での空き分について参加を受け入れます。

7. 常任理事会報告（平成18年4月～6月）

◎第1回（平成18年4月18日（火））

- 平成18年度各種委員会委員のうち未決定の実務委員等については、当該の委員会委員長の推薦により次回理事会にて決定することとした。
- 前期の各種委員会より引き継がれている主な案件等につき下記の通り検討・了承した。

企画委員会：

平成16年度・17年度に企画委員会のアドホック委員会であった「病理検査技師との関係に関する小委員会」は、平成18年度からは医療業務委員会の小委員会として改めて発足することになっていたが、中島孝小委員会委員長および根本新医療業務委員長の話し合いで、一度委員会を閉じることとした。今後は審議内容の再検討を含め、委員会の再構築をしていく方向である。

財務委員会：

平成16年度の監事からの提言も含めて財務の見直しを行い、新事業企画への対応等を検討する。

学術委員会：

「学術集会のあり方」については、改定案を春期総会時に提案・了承を得ることとした。

病理専門医制度運営委員会：

平成 18 年度より、「病理専門医研修指導医」および「病理専門医研修指導責任者」の制度が施行されるので、具体的に認定の方法を検討する必要がある。また、認定研修施設については、平成 18 年度より認定の基準のひとつになっているので、精度管理を施行する。

医療業務委員会：

各種小委員会の案件につき、今後とも外部との交渉も含めて進めていく必要がある。

教育委員会：

バーチャルスライドによるスタンダードの教材作成を継続して行っているが、これについては、今後どのように進めていくか検討する。

国際交流委員会：

ドイツとの交換留学生については、ドイツ側との話し合いをもち、今後の対応を検討する必要がある。

倫理委員会：

いわゆるネクロプシーについては、顧問弁護士に諮問し、それを参考にして病理学会としての見解を出す必要がある。

剖検標本の取扱いについては、最高裁の決定が昨秋でているので、井藤倫理委員長にまとめてもらい会員に周知する必要がある。

医療関連死関係専門委員会：

理事長直轄の特別委員会として、今後活動する。

3. 春期総会時の理事会・総会等について、議題および運営の方法を検討した。
4. 新常任理事会の検討課題が理事長より提示された。
深山新企画委員長からも、新企画委員へのアンケートまとめが提示された。
新理事長はじめ新常任理事会メンバーは、所信表明をホームページおよび会報に掲載することとした。
5. (株)メディカル・プリンシプル社が行っている「研修医のための後期研修セミナー」に出展することを検討した。

◎第 2 回（平成 18 年 5 月 16 日（火））

1. 医療業務委員会のなかに「日本臨床衛生検査技師会との関係委員会（仮称）」を立ち上げることを検討した。
2. 次回（平成 20 年度）診療報酬の改定に向けて、「判断料」の取扱いなど、新たな要望を考えていく必要がある。

る。

3. 学生・研修医むけのパンフレットを作成しており、学生・研修医向けのセミナーで配布することにした。6 月 4 日の研修医向けのセミナーでは、小机とプレゼンテーションの機会を得た。効果の報告をもらうこととした。7 月 16 日の学生向け（東京ビッグサイト）、8 月 6 日の研修医向けのセミナー（大阪）への参加も検討した。
4. 教育委員会から提案された「学生ポスターに関するアンケート」は、本年度総会の企画であったことから、当該学会の坂本穆彦会長に依頼し、結果を企画委員会に報告してもらうこととした。
5. 総会でもアナウンスされた教育委員会が 8 月 20 日に計画しているワークショップについて検討した。テーマについて若干の再検討を依頼することにした。
6. 岡田理事より総会時に「学術集会改革案」が総会で承認されたことを受け今後の活動について説明がなされた。主な内容は以下の通りである。
プログラム推進委員会を 5～6 月に立ち上げる。
プログラム推進委員会と病理診断講習会委員会との打ち合わせの開始。
秋期学術集会への参加を 20 単位とするよう、病理専門医制度運営委員会へ諮る。
各種申請書の改定をおこなう。
また、平成 19 年度技術講習会の世話人は、落合淳志学術評議員に依頼した。
7. 内保連の委員の交代について長村義之から根本則道（両理事）へ、斉藤 澄から稲山嘉明（両学術評議員）へ変更する旨、内保連へ届けることとした。
日本医学会の評議員等について変更を医学会に届けることとした（各理事）。
評議員：長村義之 連絡委員：岡田保典 用語委員：坂本穆彦（継続）
日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会より依頼のあった「卵巣腫瘍取扱い規約改訂」の病理側委員として、次の 4 名の会員を推薦することとした。
坂本穆彦（杏林大学） 手島伸一（同愛記念病院） 本山悌一（山形大学） 石倉 浩（千葉大学）
その後石倉教授が急逝されたが、補充せず 3 名を推薦した。
8. 病理医リクルートについて、企画委員会で検討してもらうこととした。

◎第 3 回（平成 18 年 6 月 15 日（木））

1. 「日本臨床衛生検査技師会との関係委員会（仮称）」を立ち上げるためにも日臨技と会合をもつ必要がある

- ことを確認した。
2. 6月12日に厚生労働省がん対策推進室のヒアリングを受け、長村理事長が病理学会の専門医について概略を説明したことの報告があった。
 3. 日本専門医認定制機構が社団法人化を目指していることについて、定款（案）の説明が長村理事長よりあった。
 4. 7月4日より7日までマンチェスターにて開催される第100回英国病理学会には、青笹 長村 坂本 笹野の4名の理事が参加し、合同シンポジウムを行う。
 5. プログラム推進委員会の委員について協議し岡田保典、黒田 誠、深山正久、青笹克之、清水道生、梅村しのぶ、村田哲也の7名の会員が岡田理事より推薦されたので、これを了承した。
 7. 会報7月号に春期会長および秋期世話人の募集記事を掲載するにあたっては、応募要領に「日本病理学会学術集会改革案（平成18年5月1日決定 会報221号6月刊掲載）」の趣旨を踏まえて、と追加することとした。実際の応募用紙は常任理事会とプログラム推進委員会で作成することとする。
 8. 学術研究賞（A 演説）の申請用紙の変更については次回学術委員会で討議・了承後、理事会に提案することとする。
平成19年度の病理学会カンファレンスの世話人を、旭川医大の小川勝洋理事に依頼する旨が研究推進委員会委員長の樋野興夫理事から提案されたので、これを了承した。
 9. 病理専門医の受験資格について、死体解剖資格は受験申請時（4月末）までに必ず取得しておくよう周知徹底することにする。
 10. 「学術集会の改革案」より病理専門医制度運営委員会へ諮問のあった秋期特別総会の参加単位数は、20単位とすることが了承された。
 11. 病理診断講習会委員会については、病理専門医制度運営委員会の実務委員会と位置づけることとする。
平成18年度委員は、清水道生（委員長）、森谷卓也、および7支部から各1名の計9名の会員である。
 12. 平成19年の細胞診講習会の世話人を本年と同様に慈恵医大の羽野 寛教授に依頼した。
受験資格としての講習会でもあるので、4月末の受験申請時には終了しているよう来年からは1月～3月で開催してもらうよう要請することとした。

13. 病理専門医研修指導医証の発行手数料を2,000円とし、対象者に文書で通知し徴収・発行することとした。
14. 医療関連死関係専門委員会についてすでに黒田 誠委員長他5名の委員が決定されているが、これに深山正久理事も加わることが了承された。
15. 8月20日開催のワークショップは「若手病理医育成のためのワークショップ」とし、企画委員会、病理専門医制度運営委員会および教育委員会担当とすることとした。再度案内を送る際には、研修医・医学生向けのパンフレット「病理医は求められています」も同封することとした。
16. 6月4日に、パシフィコ横浜でのレジナビフェア（研修医対象）にブースを出展し、プレゼンテーションも行った。今後7月16日（医学生対象 東京ビッグサイト）8月6日（研修医対象 マイドームおおさか）にも出展することとした。

お知らせ

1. 平成18年度（第28回）沖縄研究奨励賞推薦応募について
申込み締切り：平成18年9月30日
連絡先：（財）沖縄協会「沖縄研究奨励賞」
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-6-15
TEL：03-3580-0641 FAX：03-3597-5854
E-mail：fvgm0090@nifty.com
2. IMC16 サテライト 病理診断国際セミナー
Gown & Osamura
“免疫組織化学と分子病理” UPDATE について
講師：Dr. Allen Gown (Phenopath Lab, USA)
Dr. Jeniffer Hunt (Cleveland Clinic, USA)
他
会期：平成18年9月2日 10:00～17:00
会場：シェーンバツハ砂防（砂防会館別館）
世話人：長村 義之（東海大学 医学部 教授）
参加費：5,000円（ハンドアウト代込）
申込み：HP <http://tokyo-satellite.med.u-tokai.ac.jp/>
「参加申込」より予約をお願い致します。
0463-93-1121（内線2581 担当：伊東まで）